

子どもたちと過ごしていると、いつの間にか「約束ごと」が増えていきますよね。園生活においても、未満児の子どもたちが自由に出入りできる場所にハサミなどが出しっぱなしになっていたり、小さなものが落ちていたりするとケガや誤飲の危険があります。そこで、「ハサミはおとながいるときに使うこと」とか、「これは持ち出さずにこの場所で使うもの」「使ったら元の場所に片づける」など、みんなに守ってもらわないと困ることについて、いくつか「約束ごと」を定めています。

でも「約束」と「ルール」って？ と、ふと疑問に感じて調べてみたところ、「ルール」とは「規則や決まりのこと」で、「約束」とは「当事者間での取り決め」というふうに書かれており、なるほどと思いました。これまで意外と意識せずに使うことが多かったのですが、使い分ける必要がありそうですね。ルールは、「みんなが守らないと困ることになる“決まり”」のことで、「みんなでルールを守ろうね」というのが「約束」ということでしょうか。

さて、ルールでも約束でも決めるときに大事にしてほしいポイントを3つ。

## ① それはなんのため？

どうしてそのルールや約束が必要なの？ 大事なポイントですよね。いきなりよくわからないルール（決まり）を「約束」として押し付けられたとしたら、そんな約束守りたくないし、隠れてこっそり・・・なんていうことになりかねません。「がまん」にもつながりますが、「がまん＝あきらめる」ということにならない配慮が大切です。そもそも、がまんは「がまんした先の喜びにつながるためのもの」であってほしいと思います。

変な例えで恐縮ですが、出かけた先でトイレに行きたくなくなったとき、「トイレが無いからがまんしなさい」だけだと絶望的になってしまいますが、「〇〇にトイレがあるから、そこに行ったらできるから、それまでがまんしようね」と言ってもらえると希望を持ってがまんできますよね。あれもダメ、これもダメ、がまんしなさいといくら言われても、生理的欲求のように、がまんでできないものもありますので「こういう方法ならできるんだよ」という方法を伝えたり、一緒に考えていくことが大切です。また、頭ごなしになんでもかんでも「がまんしなさい」ばかりだと、だんだん「自分のやりたいことはやっちゃいけないんだ」、「はじめから何もしないほうがいいんだ」と何もやる気の起きなくなったり、やりかけても「すぐにあきらめる」習慣が付いてしまうかもしれません。

「何のためのルールや約束なのか」をしっかり理解できていたら、「ちゃんと約束を守ろう」と思えるかもしれませんし、少なくとも約束を破ることに罪悪感を感じるようになるのではないのでしょうか。

## ② 約束の決め方

先ほども述べたように、「ルール」は、交通ルールや公共的なルールなど、あらかじめみんなに守ってもらわないと困るものがあるので、ある程度押し付け的な面があっても仕方のないものかもしれません。しかし、どうしてそのルールが必要なのか、守らなかつたらどうなるのかをしっかりと理解しておく必要があります。「約束」は「当事者間の取り決め」です。どちらかが勝手に決めて、それを一方的に守らせようとするなら、それはもはや「命令」となってしまいますので約束事を決めるときには、一緒に対等な立場で話し合っただけで決めることが前提となるべきです。

お互いの「こうしてほしい」「これがしたい」「それをされると〇〇だから困る」「どうすればいい？」「じゃあ、こうしてみるといいのでは？」「それならいいかも」・・・とお互いが納得できる約束を決めるようにしたいものです。

お互いに約束を守るうえで「平等(対等)である」ことも大切な前提です。片方が相手のことをずるいと思ってしまうような約束はなかなか守れません。もし、おとなが子どもの目の前で菓子を食べてながら、「ご飯が食べられなくなるから子どもはご飯の前にお菓子を食べちゃダメ！」と言ったとしても子どもにしてみたら「そんなのずるい！」・・・ですよ。

## ③ もしも約束を守れなかったら？

約束を破ってしまったときの対応も先に考えておくといいですね。お互いが納得して決めた約束なのだから、「約束を一度でも破ってしまったら厳しい罰を用意する」というのはお勧めできません。というのは、一発でアウトだった場合、つい約束を破ってしまったときに、「どうせ約束破ったんだから、もうどうにでもなっちゃえ！」となってしまう可能性があるからです。

約束を破ってしまった場合について、あらかじめ、たとえば「イエローカードが〇枚になったらレッドカードね。」イエローカードの時は〇〇、レッドカードになったら□□、などとこれについても一緒にルールを決めておくといいでしょう。そして、たとえイエローカードをもらってしまった場合でも、「洗濯物を畳んだらイエローカード1枚分取り消し」など、イエローカードを減らすことができるような仕組みも作っておくと、自分で考えながら、なおかつ楽しい感じで約束が守れるようになっていくのではないかと思います。